

かわさき

# 農家だより

発行 川崎市農業振興センター  
〒213-0015  
川崎市高津区梶ヶ谷 2 - 1 - 7  
電話 044-860-2462  
FAX 044-860-2464



## がんばれ かわさきの農業後継者

川崎市では、平成 16 年度から、農業後継者育成事業として「新世代ファーマー育成事業」を実施し、将来のかわさきの農業を担う農業後継者を育成しています。

応募者の中から選定された受講生 22 名を対象に、平成 16 年 10 月から平成 17 年 2 月までの毎月 1 回・計 5 回、新たな発想や経営感覚を身につけることのできる研修「新世代ファーマー育成講座」(下記「講座内容」参照)を開催しました。

また、2 月には千葉県印旛村の農産物直売所「グリーブ」を視察し、代表の方に開設から現在までの経緯や運営方法などについてお話を伺いました。



新世代ファーマー育成講座開催風景

### 講座内容

#### 「街づくりの中での農の役割」

～東京農工大学農学部 助教授 淵野 雄二郎氏～

#### 「経営の基本について考えよう」

～中小企業診断士 藤田 直哉氏～

#### 「もっと知ろうよ税金のこと」

～税理士 清田 幸弘氏～

#### 「今、消費者が食マーケットに求める真のニーズ」

～相鉄ローゼン(株) 営業本部商品計画部長 吉田 雅夫氏～

#### 「興味をひくプレゼンテーションの仕方」

～(株)プロトウィル 代表取締役 上坂 渉氏～

## ～「かわさき農業フォーラム」を開催します～

「新世代ファーマー育成講座」受講の成果として、受講生が中心となり、学識経験者や市民を交え、これからの川崎の農業について、それぞれの立場から話し合う「かわさき農業フォーラム」を次のとおり開催します。下記のとおり参加者を募集します。皆様、奮って御参加ください。

日時：平成 17 年 3 月 16 日(水) 14 時から

場所：高津市民館 大会議室(溝口駅前ノクティ 2・12 階)

内容：新世代ファーマー育成講座受講生によるプレゼンテーション

「私たちの目指すかわさきの農業」

パネルディスカッション

コーディネーター：井上 和衛氏(明治大学名誉教授)

パネリスト：市民団体、農業者(受講生)、市長

参加申込み：直接または電話にてお申込みください[2月25日(金)午前9時から受付]ただし、先着150名で締め切りとさせていただきます。

【問い合わせ先 農業振興課 860-2462】



# 都市農業について勉強しています

～ 川崎市立白鳥中学校における食農教育～



川崎市農業委員会事業推進協議会は、平成15年度から、川崎の農業を知って都市農業の意義を理解してもらうため食農教育を進めています。

今年度は川崎市立白鳥中学校の1年生の皆さんに総合学習の時間を利用して大豆の播種から収穫、加工までを体験してもらいました。

**6月**にポットにエダマメの種を蒔いた後で農業委員さんから地元の農業のことや農作業の大変さや楽しさ、やりがいなどを話してもらいました。



授業風景

**7月**にはエダマメの苗の定植と大豆の種まきをしました。実際に畑で作業をするのは初めてという生徒も多く、慣れない手つきでの作業でしたが、説明をよく聞いて農業委員さん達に手伝ってもらいながら、頑張って植え付けました。その後夏休みの間にも有志が集まって畑の草取りをして、エダマメを収穫しました。

**10月**の終わりに、大豆を収穫しましたが、今年は天候に恵まれず、質、量ともにあまり良いものが収穫できませんでした。生徒たちは、農業の難しさを身をもって体験することになってしまいました。

**12月**に収穫した大豆は、乾燥させてから1つ1つ莢(さや)か

ら取り出して選別をしました。

これからは川崎市女性農業担い手の会のあかね会の皆さんに豆腐の作り方を習い、実際に豆腐作りに挑戦する予定です。



大豆の収穫

畑での作業と併せて生徒たちは、大豆の歴史や生産量、栽培特性、栄養価などについて調べて、1人1人が個人新聞という形でまとめたり、学校の文化祭でVTRを放映したりしました。また、普段食べている物を自分で栽培することで、育てることの楽しさや、何気ない作業の大変さを実感していました。

この事業を通じて宮野会長職務代理者は、「生徒さんにはもっと良いものを収穫させてあげたかったのですが天気が悪く残念でした。しかし、楽しんで作業していたので、このような体験を通じて将来農業を目指す人が出てくることを期待しています。」と話されていました。

## 【問い合わせ先

川崎市農業委員会 860-2461】

ご協力をいただいた農業委員さん  
宮野会長職務代理者、上原委員、伊藤實委員、小林騰委員、伊藤盛夫委員、吉垣委員、高木委員、関口委員、宮崎委員 ありがとうございます。



## 多摩川ナシ栽培支援講座を始めます

フルーツパークでは、ナシ栽培農家の作業をお手伝いする市民を養成するための講座を計画しています。この講座の内容について、Q & Aでご紹介します。

### Q. この講座の目的は？

A. 繁忙期の労力不足等を補助するため、ナシ栽培の基礎的知識を持った市民の方を養成し、農家へ派遣することを目的としています。

### Q. 講座の内容は？

A. 摘蕾、受粉、摘果、収穫、剪定など、ナシの生産に関する知識や技術を2年間、22回の講義及び実習で習得してもらいます。1年目は講義と実習。2年目は現場での作業を中心に行う予定です。

### Q. 募集対象は？

A. 市内在住・65歳以下で、講座修了後農家のお手伝いをする意思のある方が対象となります。

### Q. 講師は？

A. 普及センター、JA、生産者代表及びフルーツパークの職員で担当する予定です。

### Q. 農家への派遣の方法は？

A. 2年間の受講修了者は名簿に登録され、農家のみなさんからの要請により、お手伝いに伺います。

### Q. 報酬は？

A. お手伝いした市民に対し、アルバイト料を支払っていただきます。

### Q. 事業の開始時期は？

A. 講座は平成17、18年度の2年間。派遣は平成19年の4月以降を予定しています。

【問い合わせ先 フルーツパーク 945-0153】

## 伐採届について

山林をお持ちの方はお読みください



市街化調整区域の山林を伐採する場合は、川崎市に伐採届(伐採及び伐採後の造林届出書)を提出する必要があります。

神奈川県内の「地域森林計画」の対象民有林(川崎市においては市街化調整区域の山林です<sup>1</sup>。)を伐採する場合は、法令により市町村の長に伐採届を提出することが定められています。市街化調整区域の山林を伐採する場合は、伐採届の提出をお願いします。

<sup>1</sup> 他法令で規定する森林も該当する場合がありますので、農業振興課での確認をお願いします。

届出にあたって

- ・ 伐採を開始する日、前90日から30日までの間に提出してください。
- ・ 竹林の伐採については届出の必要はありません。
- ・ 伐採の面積が1ヘクタールを超える場合は、県知事の許可が必要になります。
- ・ 届出書は農業振興課にあります。

【問い合わせ先

農業振興課

860-2462】

# 畑の健康診断をしてみませんか



土壌分析は健康な作物づくりの基本となるもので、自分の畑の状況を知る有効な手段です。毎年、肥料が使われることにより、土壌養分のバランスが崩れると、病虫害の被害を受けやすくなります。畑の健康診断と考え、年に一度は土壌分析することをお勧めします。

## 分析項目の意味

項目	意味
pH	土壌の酸性・アルカリ性を示します。0～14の数字で表わされ、数字が7より小さくなるほど酸性を示し、大きいとアルカリ性を表わします。土壌が酸性に傾くと、作物の生育が不良になりやすく、カルシウム・マグネシウムの欠乏などの害が出ます。アルカリ性土壌では鉄・マンガン・ホウ素などの微量元素の吸収が悪くなります。酸性が強い場合には石灰資材を施用します。
EC	電気伝導度のことで土壌中の塩類濃度の指標。ECが高ければ高いほど土の中に残っている窒素分が多いということがいえます。低ければ土壌中の肥料分が少なく、生育不良を引き起こします。適値は0.3以下で、果樹の場合は0.2以下が望ましいとされています。ECが0.3（果樹では0.2）以上の場合、硝酸態チツソの測定を行なっています。
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> （リン酸）	植物の生長・開花結実をよくし、品質向上に影響を与えます。適値は20～50mgで、欠乏すると生育不良で葉色が濃くなります。過剰障害は出にくいですが、亜鉛や鉄、マグネシウム欠乏を誘発する場合があります。
CEC	その土壌が持つ肥料の保持力。粘土質、腐植の多い土ほど高い値となります。20以上を目標とし、それを下回る場合は堆肥を施用するなどして高めて下さい。
CaO（石灰）	石灰が多すぎるとpHが高くなります。また苦土やカリの吸収を阻害し、苦土やカリの欠乏症の原因となることがあります。少ないと生長組織の発育不全、細根の減少を生じます。
MgO（苦土）	葉緑素の主成分で光合成に関与するため、苦土が少ないと葉が黄色くなるなどの欠乏症が現れます。カリが多いと吸収されにくいのでバランスを考えて施用します。
K <sub>2</sub> O（カリ）	光合成や炭水化物の蓄積に関与します。過剰な場合は、カリの割合の低い配合肥料やカリ抜きの配合肥料を使用し、適正範囲に近づけていく努力が必要です。わら等に多量に含まれるので注意が必要です。苦土とカリのバランスが逆転している場合、苦土が十分あるにもかかわらず苦土欠乏が出る人が多いので注意してください。

石灰・苦土・カリは量だけでなく、成分間のバランスが大切です。

大多数の作物にとっては、石灰>苦土>カリのバランスがよいとされています。